

# 野の花新聞

No. 7 12月10日号 「来てくれてありがとう」

みなさま、こんにちは。

野の花の みなかた あきこ です。

ついに一年の締めくくりの月になりました。時間が駆け足で去って行く感覚が年々強くなります。だからこそ、「今」を大切にしたいと思うのですが・・・  
生来ののんきさからでしょうか、一日の終わりに「あー楽しかった」と言えれば合格かなと考えたりしています。師走のあわただしさにめげず、ゆったりした楽しい時間をお持ちくださいますように・・・



今月は、子どもを授かるまでのお話をしたいと思います。

結婚したら自動的に子どもが出来ると思って疑わなかったのも、まさかそれから5年間 不妊に苦しむことになるとは思いませんでした。

一年が過ぎる頃になると このままではいけないのではないかと焦りが出て、ついに不妊外来に通い始めました。が、かえってやりばのない怒りや絶望に毎月苦しむことになりました。今ほど配慮のある時代ではなかったのも、診察室と中待合室はカーテン1枚で隔られるだけで、妊婦さんや一般婦人科の方も診察を待っており、話は筒抜けです。次第に、何の関係もない妊婦さんたちへの怒りがこみあげてくるようになりました。

・・・なぜ平然と人のつらい話を聞いているの？

そして、そんなゆがんだ怒りを抑えられない自分を責め、母親になる資格はないと思いつめました。

残念ながらあの頃は 夫も母も、私のそんな屈折した思いを受け止めてくれるほど寛大ではなかったのも、心の行き先はありませんでした。数年通い、ついに心が折れました。

・・・子どもは人間がつくるものではない、神さまが夫婦に預けてくださるものなのだから。

今の生活を大切に、子どもがいなくても素晴らしい人生にしよう。

やっとそう思えるようになったら・・・ まあ・・・

医師は ストレスがなくなったからでしょうと言いましたが、最近わかったことがあります。

子どもは神さまからお預かりするものと気づくまでのあの苦しかった5年という月日が私には必要だったのです。

子どもたちと過ごす幸せを知るため。

たくさんの方々の心に もっと寄り添うため。

長男も 次男も・・・

ようこそ ここへ

ずっとそばにいてくれて

ありがとう

ほんとうに・・・



すばる

今月から変顔特集です。

カメラ苦手。

緊張の余り笑っちゃってます・・・